



報徳食品支援センターは横浜銀行様の支援金を受領

報徳支援センターは、横浜銀行様(代表取締役 片岡達也様)の実施する「はまぎん」ミライを創るアクションプログラム」に応募し、採用していただきました。

当該プログラムは主に神奈川県で社会課題解決に向けて活動しているNPO法人を支援し、当行が活動奨励金を支給することで地域の社会課題解決に貢献することを目指す取り組みです。第1回目となる今回は、「こどもの貧困問題」の解決に向けた取り組みをテーマにアイデア・プランを募集し、32団体が応募しました。幸いにも私たち報徳センターは、書類審査およびプレゼンテーション審査にも通り、受賞した3団体の中に入ることができました。

9月1日(木)に活動奨励金授与式が

横浜銀行様本店で、黒岩神奈川県知事様もご臨席の上、開催され、当センターから本岡理事長が出席いたしました。



前列右端が横浜銀行片岡頭取様
前列左端が黒岩知事様、その右隣が当センター本岡理事

受賞したアイデアについてご紹介いたします。
美味しい物サプライズ

「日頃、厳しい状況で頑張っているシングルマザーのお母さんの誕生日に、



家族全員で祝える様にささやかな「美味しい物サプライズ」を実施します。ケーキ十お寿司等、普段食べられない「幸福を感じる美味しい食品」を母親の誕生日に提供したいと思います。」これが、アイデアの核心です。

コロナ禍の中、安価な賃金で子どもたちのために必死で頑張っているお母さん、心が折れそうになりながらも頑張っているお母さん、そのようなお母さんたちにささやかなプレゼントをして、「明日も頑張ろう。」と思っただけだったらと…作った企画です。

「子どもたちへのプレゼントではないですか?」とのご質問もありました。私たちは、子どもにお菓子を提供して、子どもが喜んで食べる姿を見て、自分は食べなくても喜ぶ母親を観てきました。こんな素敵な母親を応援したいと思いました。勿論、子どもにも喜ぶものも用意します。それが答えです。

このアイデアは、報徳食品支援センター全員のアイデアです。特にシングルマザー支援の活動を長年やってきている当センターメンバーと料理の専門家の共同のアイデアです。

また、シングルマザーが多いのですが、シングルファザーもいられます。当然のことですが、そのシングルファザーも対象にしています。

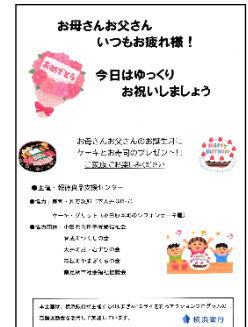
この企画をこの月からスタートします。プレゼントにお祝いのメッセージをつけてお渡しします。

小田原社協が当センター紹介セミナー開催

8月31日(水)に小田原市社会福祉協議会様が「報徳食品支援センター」の活動を紹介するセミナーを開催されました。市役所の福祉相談員や包括支援センター

などの福祉の現場で働く方々に活動内容を知ってもらい、仕事に役立たせていただきたいという主旨でした。活動を始めて2年半余り当センターの活動が現場で働く方にも次第に知られて来ました。困窮されている方の生活立て直しの相談業務、あるいは長期入院されている方が退院後自活できるように見守る介護の仕事をする方にとって、適切な食品を提供する事で仕事が順調にはかどるのを実感されているのです。今回はズームでの参加も含めて30名近い方が出席されました。

私たちがからは、これまでの福祉現場で働く方との協業事例を紹介し、まず対象となる方と



相談員の方に来ていただき、家族構成・年齢・持病・アレルギー・食料支給頻度等の情報を元に食品支援のメニューを作り、食品を準備する事、支援の回数には制限は設けていない事などを話しました。但し、生活困窮者が対象者ですので、無制限の食品支給は現実にはやっていません。また、そういう過大な要求をする方も現実にはいません。

さらに、出席した当センターのメンバーから、食品支援活動で成果のあった体験談を話す事ができたのも良かったと思います。例えば、食品を多く提供すると、余ったお金で無駄な買い物に回してしまうこともあり、市役所職員との同行で、行政の行う自立支援・生活指導と整合性をとることができたこともありました。

また、当センターから直接食品支援している方には、単に食品を届けるだけでなく、積極的に声をかけてあげることも大切です。このような方は、日頃から他人との会話もなく、孤独な生活を送っていることが多いからです。

セミナーが終わると、早速出席者の方から詐欺にあってお金がなく、食品も買えない人の救済といった具体的な相談もありました。また、会場では、災害用備蓄品のアルファ米が美味しく食べられる試食会も行われました。

地域に密着して一人ひとりの困っている方に寄り添いたい私達の願いが一步進んだなあと実感できた機会となりました。



海老名市の中学生が当センターへSDG見学

海老名市今泉中学校の

生徒さんたちがわざわざ

小田原市の当センターに

来てくれました。当セン

ターのSDGの活動を

見学したいとのことです。

SDGは、持続可能

な開発目標(Sustainable

Development Goals)と言い、2015年9月25日

に国連総会で採択された、地球の持続可能な開

発のための17の国際目標です。参考までに図で

お示します。



私たち報徳食品支援センターは、その1番目

「貧困の撲滅」と、12番目の「つくる責任・つかう

責任」(この項目に「食品ロスの削減」も含まれま

す。)に貢献しています。

今の日本は522万トンという膨大な食品ロス

が出ています。そして他方、食事にも困っている

生活困窮者の人たちが大勢います。(2020年

の生活保護者数で2百万人以上)要は、食品の需

給にアンバランスが起きています。フードバンクは、余っている食料の提供を受け、生活に困っている方々に無償で提供する役割を果たしています。

小田原地域で、私たち報徳食品支援センターは、食品メーカー、流通業者・個人の方々から年間約70トンの食品を無償で提供を受け、約1万人の生活困窮者に配布しています。ささやかな活動かもしれませんが、地域の行政・福祉団体と連携して実施しています。そのような活動の実態を、質疑を交えて説明しました。また、当センターの事務所兼倉庫のたくさんのお食品を見て驚いていました。

後日、お礼の感想文が送られてきました。

「...私も、将来仕事をするときに、今回の貴重な体験を思い出し、前向きに取り組めるような仕事や活動を探していきたいと思います。...」是非、そのような立派な大人になってほしいと願っています。このような人がたくさんになると、地球も日本ももっと住みやすいところになりますよ。ね。きつと!!

そして、このようなお手紙をいただくと、私たちも力が湧いてきます。ありがとうございます。た。

編集後記

毎度ご購入いただき、ありがとうございます。お彼岸を迎え、ようやく涼しくなってきました。まだまだ、新型コロナの勢いは衰えてはいませんが、皆様も、「ご健康にお過ごしください。」